

1 研究主題

課題解決に向けて主体的に学ぶ児童生徒の育成（3年計画の第3年次）

～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

2 研究主題設定の理由

文部科学省の学習指導要領改訂の視点において、子供たちが成人して社会で活躍する頃には、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく急速に変化し、予測が困難な時代になっていくことが示唆されている。このような時代にあって、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協力して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実践し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。そのような新しい時代に必要となる資質・能力として、①「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」②「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（人間性や学びに向かう力等）」が挙げられている。これらの資質・能力を様々な課題の解決に生かし、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、学習過程を質的に高めることが必要とされている。

本校の児童生徒は、小規模校で学年に関係なく子供同士の仲が良く、素直で指示されたことを真面目にやろうとする良さがある。しかし、学習の様子を見ると、児童生徒自らが学習課題を見つけ、自分の力で解決したり、そこからさらに疑問をもち粘り強く探究したりする力が十分ではないことがうかがえる。また、佐賀県小・中学校学習状況調査の結果から、全体的に読解力に課題があるという本校の実態が明らかになった。そこで、研究1年目は、授業における導入場面で児童生徒が興味・関心を高め、ゴールに向かって自ら主体的に学習に向かい続けていけるような工夫を行った。そのことにより、多くの児童生徒が、課題を解決するために、自分で考え、自分から取り組もうとするようになったと考えている。また、「言の葉タイム」や「味見読書」等の取組により、読書の有用性も感じている。研究2年目は、より広がりのある主体的な学びにつなげていくために、対話的な学びに関する研究に力点を置いた。指導者側は、資質・能力を身に付けるための目的や視点をもち、学習者側が必要性・必然性を感じて対話的な学びに向かうような課題の提示や場の設定を行うように意識をした。子供たちは対話的な学びを通して、他者の考えを見聞きすることにより、自分の考えを広げたり、深めたり、よりよくしていこうと学習に臨んでいった。

そこで今年度は、2年間の研究を生かし、授業研究部と学び支援部に分かれて、深い学びにつながる研究を行う。授業研究部では、課題解決に向けて、主体的に学ぶ児童生徒を育てる授業づくりを行う。学び支援部では、基礎的・基本的な知識・技能の習得や学びの基盤づくりを行う。

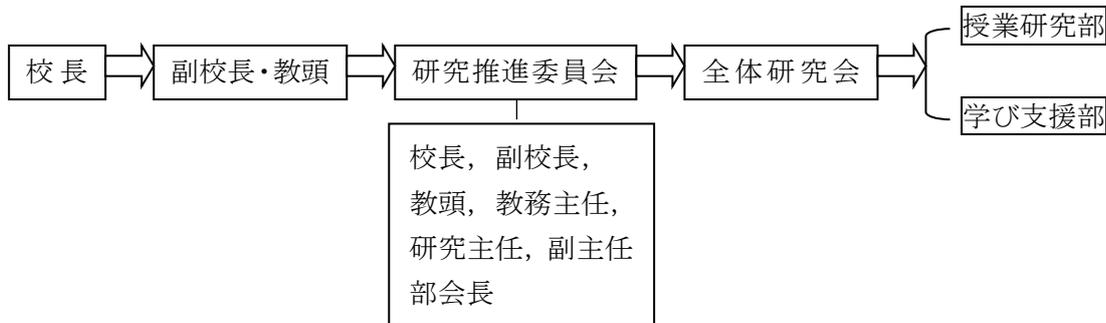
以上のように、2部会での取組を研究の柱として実践していくことで、児童生徒は、主体的に学習に取り組み、学びを深めていくことが期待できると考え、上記主題を設定した。

3 目指す児童生徒像

課題解決に向けて主体的に学ぶ児童生徒

- ・課題解決への見通しをもつ
- ・基礎的・基本的な知識・技能を習得する
- ・課題解決に向けて粘り強く探求する
- ・新たな課題・自分の課題に対し探求し続ける

4 研究の組織



5 研究の内容・方法等

(1) 授業研究部：主体的に学ぶ児童生徒を育てる授業づくりを行う。

- 「深い学び」の定義付けとその効果的な授業づくり
- 「北山校授業モデル」の活用
- 「北山思考スキル」の活用の推進
- 授業研究会の実施
- 教員同士の授業参観期間の実施

等の取組

(2) 学び支援部：基礎的・基本的な知識・技能の習得や学びの基盤づくりを行う。

- 「言の葉タイム」(スキルタイム)の充実
- 図書館教育との連携(味見読書等)
- 家庭学習の充実

等の取組

6 期待される成果

- 課題解決に向けて、児童生徒が主体的に学ぶようになる。
- 基礎的・基本的な知識・技能を習得し自らの課題解決に向かうようになる。